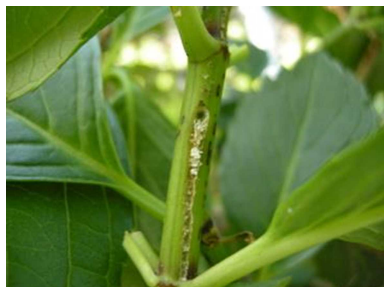


方向でわかる

1. シロオビアカアシナガゾウムシ

打吹公園や遊歩道のアジサイの新芽が伸びて蕾（つぼみ）が見えるようになったと思ったら、途中で折れたようにぶら下がっていたり、落ちてしまっていないか。切り口をよく見ると鋭利な刃物で切ったのではなく、繊維の端が見えるざらざらした切り口になっています。犯人は、体長7～8mmのシロオビアカアシナガゾウムシです。

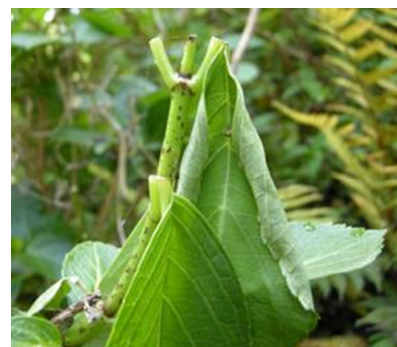
長く伸びた口吻によってゾウムシと呼ばれる甲虫の仲間ですが、アジサイの茎や葉を切断し、その下の葉が付く節と次の節の間の茎に産卵しています。そのため花がなくなり、アジサイを栽培している方にとっては害虫になるでしょう。7月になって下の脇芽が伸びても、ちょうど羽化した次代のゾウムシがまた切断します。アジサイは元気がなくなり、翌年花芽を付けなくなります。



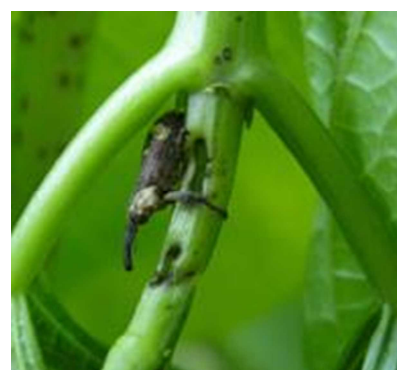
シロオビアカアシナガゾウムシの産卵痕

野生のヤマアジサイ類にも産卵するのですが、アジサイほど大発生をしないようです。驚くと脚を縮めて死にまねをし、落下して見えなくなりますので、そっと覗いてみてください。

野生のヤマアジサイ類にも産卵するのですが、アジサイほど大発生をしないようです。驚くと脚を縮めて死にまねをし、落下して見えなくなりますので、そっと覗いてみてください。



切断されたアジサイ



シロオビアカアシナガゾウムシ

2. タカオモミジの果柄

打吹公園や打吹山に植栽されているタカオモミジ（イロハモミジともいう）は、4月下旬になると開花します。おしべだけの雄花とめしべ・おしべのある両性花がついた穂がぶら下がります。葉が変化したものが花ですので、葉と同じように対生となっている花穂です。やがて受精しためしべは翼のついた果実となりますが、花柄（かへい）がだんだん上向きを変え、5月上旬には葉よりも上に翼果が竹とんぼのようになり、目立ちます。



オオモミジの翼果

よく似たオオモミジも自生や植栽が同じ場所でみられます。葉の形では変異がいろいろあるためわかりづらいのですが、実がつけばはっきりします。新芽の先端に花穂が付き垂れるところは同じですが、翼果に変わっても下がったままで上を向きません。

よく似たオオモミジも自生や植栽が同じ場所でみられます。葉の形では変異がいろいろあるためわかりづらいのですが、実がつけばはっきりします。新芽の先端に花穂が付き垂れるところは同じですが、翼果に変わっても下がったままで上を向きません。



イロハモミジの花穂



イロハモミジの翼果

新芽の先端に花穂が付き垂れるところは同じですが、翼果に変わっても下がったままで上を向きません。